



盛夏の候、コシヒカリなどの水稻が出穂を迎える時期となりました。暑さの厳しい中でも日々の作業に向き合われている会員の皆様に、心より敬意を表します。

今号では、待望の無施肥無農薬栽培の書籍発刊のご報告に加え、米づくり体験や各種農業イベントへの出店など、盛りだくさんの内容をお届けいたします。

1. 書籍出版 2026. 7. 26 頃

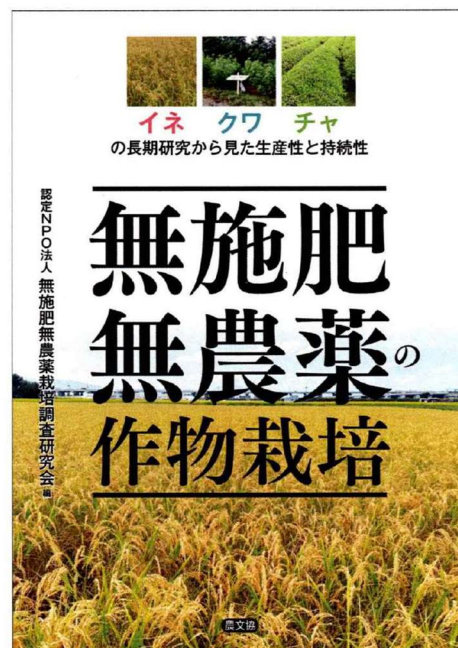
まずは2026年7月26日頃、農文協より発刊される『無施肥無農薬の作物栽培 ―イネ・クワ・チャの長期研究から見た生産性と持続性―』（NPO 無肥研 編）を紹介いたします。

本書は、無施肥無農薬栽培（無施肥栽培）における収量性、農産物の品質、圃場の生物相、経営的な有利性などを、世界的にも稀有な長期のデータで検証した1冊で、「第Ⅰ部 イネの栽培」「第Ⅱ部 クワの栽培」「第Ⅲ部 チャの栽培」、および終章で構成されています。

第Ⅰ部では、無施肥無農薬水田におけるイネの特徴や生態系、稲作経営の持続性に加え、推奨される栽培技術がまとめられています。第Ⅱ部では、無施肥無農薬桑園における葉収量と土壌特性の長期変動や、無施肥栽培クワの葉質特性についてまとめられています。第Ⅲ部では、無施肥無農薬茶園の収量、土壌、病害虫に関する内容がまとめられており、第Ⅰ～Ⅲ部ではいずれも末尾に調査対象とした圃場の概要がコラムとして紹介されています。最後に終章にて、無施肥栽培の特質と今日的意義が総括されています。

書籍の仕様はA5判の全188頁で、定価は3,850円（税込）です。全国の書店、オンラインショップでお買い求めいただけます。ぜひお求めいただくとともに、普及にお役立ていただけますと幸いです。

また、月刊『現代農業』2026年8月号の中で「ここまでわかった 無施肥無農薬のイネ栽培」と題した多田理事の記事が掲載されました。今回の新刊の内容をもとに、イネの無施肥栽培について4頁でまとめられています。こちらもぜひご覧ください！
(NPO 無肥研 林政樹)



7月26日頃発売

2. アースデイin京都 2026. 5. 16～17



京都で開催されました世界最大級の環境イベントである「アースデイ＝地球の日」に出店いたしました。今年で4回目の出店となりました。イベント当日は天候にも恵まれ、気温30度以上の真夏日の中、2日間で合計約700名の方に冷茶を試飲していただき大盛況となりました。

会場にはインバウンドのお客様やご家族連れ、地球環境に関心をお持ちの方など、多くの方々のご

来場されました。中でも、小さな男の子が試飲した麦茶を気に入り、自分のお小遣いで購入し、大切に抱えて帰る姿が印象に残りました。

また、ノルウェーに日本の良いモノを販売しておられる方がご来店くださり、無施肥栽培茶に強い関心を示され、今後につながるお話をさせていただく機会にも恵まれました。

さらに「こんなお茶を飲んだことがない」と驚きの声を寄せてくださるお客様もおられ、無施肥栽培ならではの味わいを多くの方に体験していただく事ができました。

4回目の出店となった今回は、リピーターのお客様や、前回の出店時から気になっていたとご来店下さる方もおられました。これまでは環境問題に関心をお持ちの方の来場が中心でしたが、今年はより幅広い客層の方々にお越しいただき、無施肥栽培への関心の広がりを感じる機会となりました。今後も、無施肥栽培の価値を多くの方に知っていただけるよう、地道な活動を積み重ねてまいります。

(無施肥無農薬栽培 巖田建商店 巖田早映)



3. 米つくり体験 2026.6.6, 6.28

無施肥栽培を20年継続している水田は他ではほとんど見ることのない稀有な水田であって、その無施肥田を知ってもらい、実際に体験していただこうと、田植え・草取り・稲刈りまでの作業を「米つくり体験」として企画し一般の方々に参加を呼びかけました。

6月6日1回目となる田植え体験は水田作業には好ましい薄曇りの中15名の方にご参加いただきました。



田植え体験

集合場所で参加者の皆様に自己紹介をしていただき、なかにはアースデイ

(1~2面参照)にて無施肥のお茶を飲まれその美味しさに驚かれて今回参加しました、という方がおられました。白岩理事長より田植え・草取り・稲刈りそれぞれの時期の稲の独特な色や姿に注目してくださいと挨拶がありました。

NPO 無肥研でも田植えは機械で行っていますが、今回は参加者に水田の中に横一列に並んでいただき、手植えを行ってもらいました。無施肥水田の特徴である強烈なぬめりのある土の感触に驚かれた参加者もおられ、ぬめりに足を取られて一歩進むのが容易でない方もおられました。小さいお子様も



無施肥の苗(左)と慣行の苗(右)

参加されており、無施肥の水田の中を走り回って首から下は泥だらけで存分に無施肥田を堪能して、場を沸かせておられました。

開始から約2時間、参加者は最後まで一株ずつ丁寧に手植えをされて、おおよそ2.4aの水田に苗が植まりました、参加者の方は「疲れましたが、とても心地よいです」とおっしゃっておられました。

6月28日2回目となる手取り除草に小さなお子様も含めて13名の方にご参加いただきました。水田に入られるのは初めての方もおられましたが、初めにスタッフが手取り除草の実演を行い、参加者は横一列で草取りに入

られました。小倉圃場は雑草がほとんどないので、予定しておりました 2.4 a の面積の除草はあっという間に終わってしまいました。水田の雑草は全然生えないものだと思われた方もおられたようですが、後でスタッフより他水田の雑草の繁茂状況を写真でみられ、その雑草のあまりの多さに参加者一同驚かれています。また両日途中休憩があり、小倉圃場で行われている NPO 無肥研や京都大学の調査の概要がスタッフや理事から説明されました。隣で実施されている慣行田の土にも触れてもらい長期無施肥田との土の違いや稲の姿や葉色の違いを体感され、質問される参加者もおられました。



草取り体験

両日とも、昼食には圃場から近い西宇治公園の施設をお借りし、無施肥の食材 13~14 品目と無施肥の調味料で調理したお弁当を参加者全員でいただきました。皆その美味しさをじっくり味わっておられました。また巖田建商店が無施肥の煎茶、麦茶をご用意くださり水よりもすっきりした味わいだと言われた方もおられました。初対面の顔ぶれの中で食に対して交流を深められる貴重な時間となりました。食事の最後に白岩理事長より次の通りお話がありました。「長期の無施肥無農薬水田ではなぜヌメヌメするのか？ 仮説はたてられますが解明するのは容易ではなく、そこが面白くて色々な先生方がさまざまな興味を持たれています。農業は草取りが大変なので、ごく一部を除く一般水田では除草剤が使用されます。その中で小倉の無施肥水田は雑草が驚くほど少ないです。その理由として長年の手取り除草の為に土に含まれる雑草種子量が減っているためと、水田内のスクミリングガイが雑草を食べていることが考えられますが、いずれにしろ除草剤を使わない稲作が可能になっているということが驚かれます。無施肥田の稲はムラのない生育で病気もほとんどなく天候の影響を受けにくい優れた稲で、生育に必要な窒素肥料等の投入がないにもかかわらず慣行水田と比べて約 6 割の収量があるのは驚きです」こうして田植えと草取り体験は無事お開きとなり、最後の稲刈り体験が大変待ち遠しいものとなりました。

(NPO 無肥研 倉島次郎)

4. 京都府立宇治支援学校 生活単元学習 2026. 6. 19

今年も京都府立宇治支援学校において、お茶の授業を担当させていただきました。

今年は小学部 6 年 27 名に加え、先生方や教育実習生の皆様にもご参加いただき、多くの方々に無施肥栽培のお茶に触れていただく機会となりました。

授業のはじめには、先生より「農薬や肥料を使わず自然の力で作ったお茶やお野菜の販売、そんな人や地球にやさしい取り組みをされている巖田建商店」とご紹介いただきました。

『お茶の葉を感じよう』の時間では、児童たちが煎茶、ほうじ茶、紅茶を実際に手に取り、香りや色の違いを体験しました。普段はあまり積極的ではない児童も興味をもって手を伸ばす姿が見られ、先生方も驚かれています。

続いて行った『お茶の淹れ方を知ろう』では、まず手本をみてもらった後、児童たち自身が急須を使って煎茶を淹れました。最初は不安そうだった児童も、お茶が少しずつ抽出される様子を静かに見守り、砂時計で 1 分を計る時間を楽しみながら過ごしていました。

いざ湯呑へ注ぐ場面では、一人一人が丁寧に お茶を注ぐことができ、自分で淹れたお茶をお盆に載せて他の児童へ配る姿も見られました。その照れくささと誇らしげな表情がとても印象的でした。最後の『冷茶づくり』ではそれぞれ 500 ml のペットボトルに煎茶のティーバッグを入れ、自分だけの冷茶を作りました。「早く飲みたい」と楽しみにする声があがり、苦味が好きな児童には「振ると苦味が出るよ」と伝え、一生懸命ペットボトルを振る姿も見られました。

今年も児童たちとにぎやかで楽しい時間を過ごすことができました。無施肥茶を通じて五感を使った学びや発見の機会となれば幸いです。

(巖田建商店 巖田早映)

5. 第3回オーガニックライフスタイル EXPO West in 京都 2026. 6. 12~13

「第3回オーガニックライフスタイル EXPO West in 京都」が2026年6月12日~13日に京都市勧業館「みやこめっせ」に於いて開催されました。今回の出店はベストフーズハセガワ、巖田建商店にNPO 無肥研が加わった初の三者合同で出店致しました。両日とも晴天に恵まれ、公式来場者数は1日目4,464名、2日目4,116名、合計8,580名と昨年を上回りました。

出店ブースには、NPO 無肥研の案内パンフレットの他「新刊書籍」(1面参照)や「米づくり体験」(2~3面参照)のチラシ、無施肥栽培に関する水稻の品質評価やお茶の害虫調査をまとめたパネルの展示があり、ご覧になった方は長年の研究に驚いておられました。また2歳のお子様連れのお母様は、米づくり体験のチラシに興味を持たれ、小さな子供様も一緒にご参加いただける事を喜んでおられました。

商品は、無施肥栽培のお茶、お米、野菜、ジュース、調味料、米粉など20点以上が並びました。

また巖田建商店より、収穫後間もない新茶の煎茶と麦茶の2種類の冷茶が試飲用に提供されました。試飲された方の多くは、「美味しい。本当に水出しでこんなに美味しいお茶になるの?」と驚かれていました。淹れ方によってそれぞれの味を楽しめる無施肥栽培のお茶は「煎茶はもっと難しいと思っていたけれど、これなら簡単に飲める」と喜んで購入されました。他には玄米の量り売りも行われ「なかなか安全な玄米が無いので嬉しい」とお求めになりました。みりんは他店のブースにはないと求められる他の出店業者様や、葉付き人参を数本買われる方もおられました。

今年も一般の消費者様以上に、飲食関係の方や生産者様等、沢山の方々にお越しいただきました。聞きなれない「無施肥栽培」に大変関心を持たれ、専門的な事もお尋ねになります。そういった質問にはNPO 無肥研メンバーが詳しくお話ししました。お陰様で出店ブースは、お話を聞かれる方やお茶試飲の方、お買い求めの方々に今迄以上の盛況でした。

小倉の田んぼを見たいと申し出てこられ、後日現地をご案内した実施者もおられます。家庭菜園でのあり方に疑問を持ち始められたご夫妻や、持続性のある生活や循環に興味があり熱心に話を聞かれた学生様もおられました。皆様の貴重なお話を伺い、無施肥栽培の一層の普及へと胸の熱くなる2日間でした。

(NPO 無肥研 西尾美喜)

★ 今後の行事予定

「無施肥無農薬の作物栽培」出版記念シンポジウム・懇親会 2026年9月20日(日)

シンポジウムでは、執筆者の先生方によるご講演および総合討論を実施いたします。

本講演は会員・非会員を問わず、広く皆様にご参加いただける催しとして準備を進めております。

なお、会場へお越しいただくことが難しい方につきましては、Zoom を利用したオンライン参加のご案内も予定しております。ぜひお誘いあわせの上ご参加くださいますようお願い申し上げます。

会報についてのご意見を、郵便、FAX、E-mail でお寄せ下さい。皆様のお力で会報を充実させていきたいと存じますので、ご協力のほどお願い申し上げます。
(編集担当)

〒606-8311 京都市左京区吉田神楽岡町106-2

【認定NPO法人】特定非営利活動法人 無施肥無農薬栽培調査研究会

事務局 TEL : 075-751-0347 FAX : 075-334-8058

E-mail : bureau@muhiiken.or.jp URL : <https://muhiiken.or.jp>

Facebook : <https://www.facebook.com/muhiiken>